

1 ごみ処理の概要

ごみ排出の状況:ごみ総排出量は微減、1人1日当たりのごみ排出量は横ばい。

ごみ総排出量 397,394 トン(前年度 405,934 トン) [2.1% 減]
 1人1日当たりのごみ排出量 973 グラム(前年度 983 グラム) [10 グラム 減]

ごみ処理の状況:

総資源化量(再生利用量) 68,328 トン(前年度 71,848 トン) [4.9% 減]
 中間処理による再生利用量 33,084 トン(前年度 32,166 トン) [2.9% 増]
 最終処分量 47,677 トン(前年度 49,729 トン) [4.1% 減]
 リサイクル率 17.2%(前年度 17.7%) [0.5ポイント減]

最終処分場の状況: 残余容量は、減少傾向。

残余容量 約 1,072 千m³(前年度 約 1,154 千m³) [7.1% 減]

(1) ごみの排出量

区分	P27ロー図との対応	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
人口(人)	-	1,147,248	1,142,864	1,136,360	1,128,454	1,119,318
計画収集人口	-	1,147,225	1,142,852	1,136,348	1,128,444	1,119,308
自家処理人口	-	23	12	12	10	10
ごみ総排出量(t)	-	412,855	404,061	403,721	405,934	397,394
計画収集量	A	362,570	352,343	348,409	347,733	341,518
直接搬入量	B	48,233	49,485	53,012	55,908	53,683
集団回収量	C	2,052	2,233	2,300	2,293	2,193
1人1日あたりのごみ排出量(g)	-	986	969	973	983	973
最終処分量(t)	M	48,942	50,665	52,192	49,729	47,677
直接最終処分量	D	2,986	2,276	2,483	3,308	2,463
焼却残さの埋立量	K	30,086	33,367	35,086	38,568	37,219
中間処理残さの埋立量	H	15,870	15,022	14,623	7,853	7,995
中間処理量(t)	-	386,747	379,794	376,474	378,146	374,051
焼却処理量	J	312,936	306,336	307,997	318,436	312,893
直接焼却量	E	295,274	288,774	293,492	304,118	298,903
中間処理残さの焼却量	I	17,662	17,562	14,505	14,318	13,990
焼却以外の中間処理量	F	73,811	73,458	68,477	59,710	61,158
粗大ごみ処理施設の処理量	-	3,640	3,668	3,497	3,646	3,596
その他資源化等を行う施設の処理量	-	55,997	55,667	48,508	40,125	41,734
その他施設の処理量(埋立のための破碎・減溶化等)	-	14,174	14,123	16,472	15,939	15,828
総資源化量(t)	N	80,147	76,832	74,091	71,848	68,328
市町村による資源化量	-	78,095	74,599	71,791	69,555	66,135
中間処理後の再生利用量	L	37,313	35,951	33,815	32,166	33,084
直接資源化量	G	40,782	38,648	37,976	37,389	33,051
集団回収量	C	2,052	2,233	2,300	2,293	2,193
自家処理量(t)	-	61	291	273	255	231
リサイクル率(%)	-	19.3%	19.0%	18.3%	17.7%	17.2%

- (注) ・ごみ総排出量 = 計画収集量 + 直接搬入量 + 集団回収量
 ・人口は各年度における10月1日現在の住民基本台帳人口。
 ・集団回収量とは、市町村による用具の貸出や補助金の交付等で市町村に登録された住民団体によって回収された量のこと。
 ・1人1日あたりのごみ排出量(g)=ごみ総排出量(t)÷計画処理収集人口÷365日又は366日×10⁶
 ・リサイクル率=(市町村資源化量+集団回収量)÷(ごみ処理量+集団回収量)×100
 ・ごみ処理量=直接焼却量+焼却以外の中間処理量+直接最終処分量+直接資源化量

① ごみ処理のフロー

一般廃棄物は、市町村等により計画的に収集されるものと、住民から市町村等の施設に直接持ち込まれるものがあります。これらの一般廃棄物の処理は、そのまま直接資源として利用されるもの、焼却や破碎などの中間処理を経て資源化されるもの、中間処理を経て最終処分されるもの、収集後そのまま最終処分されるものに分かれます。それぞれの処理量は次のとおりです。

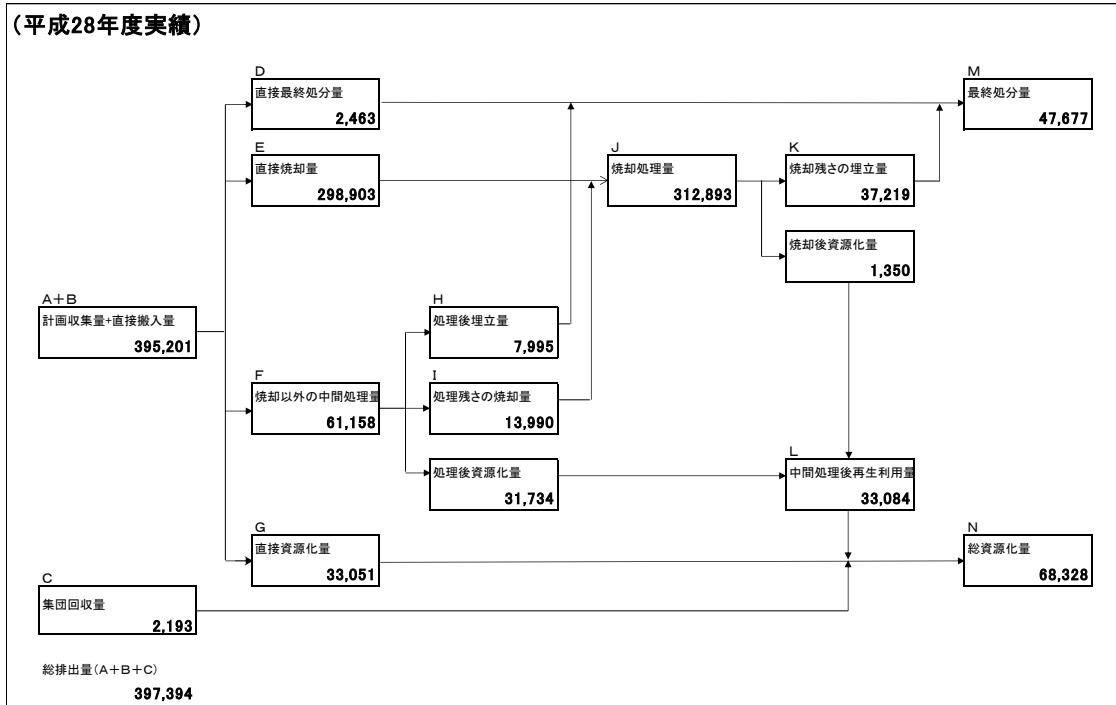


図 1 ごみ処理のフロー

② ごみの排出量

ごみ総排出量は、台風により大量の災害廃棄物が発生した平成 17 年度を除いて、平成 11 年度以降減少傾向で推移しており、平成 28 年度は、前年度と比較して約 2.1%減少しています。

1人1日あたりの排出量は973gで、前年度から10g減少していますが、全国値(925g)と比較すると、48g 多い値となっています。

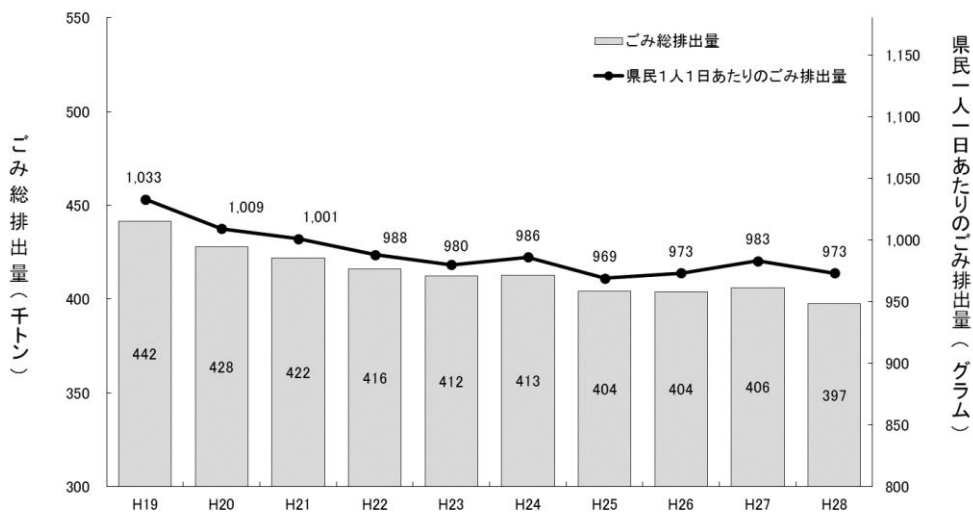


図 2 ごみ総排出量と県民1人1日あたりのごみ排出量の推移

③ 地区別ごみ排出状況

平成 28 年度の県内 7 地区毎の 1 人 1 日あたりのごみ排出量とリサイクル率は次のとおりです。

ごみ排出量が最も少ない地区は西諸県地域の 641 g/人・日で、最も多いのは都城・北諸県地域の 1,234g/人・日です。リサイクル率については、西諸県地区が最も高く 22.7%、最も低いのは、延岡・西臼杵地区の 13.4%となっています。

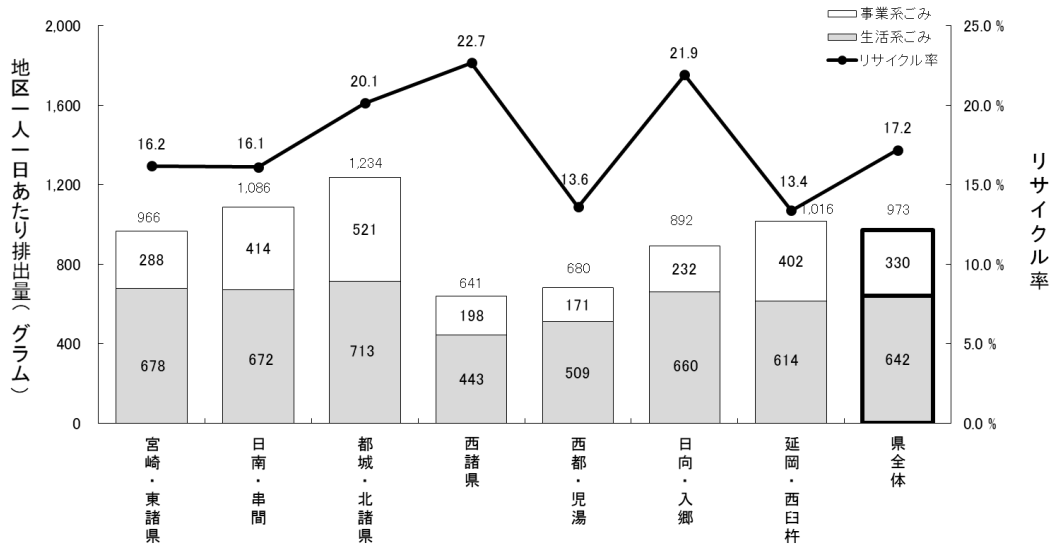


図 3 地区別の 1 人 1 日あたりのごみ排出量及びリサイクル率

(2) ごみ処理による減量化とリサイクル

平成 28 年度の市町村等による資源化量と住民団体等による集団回収量を合わせた総資源化量は 68,328 トンで、前年度と比較すると約 4.9%減少しました。

リサイクル率は、前年度と比較して 0.5 ポイント低下し 17.2%となっています。本県のリサイクル率は、全国値(20.3%)と比較すると 3.1 ポイント低くなっています。

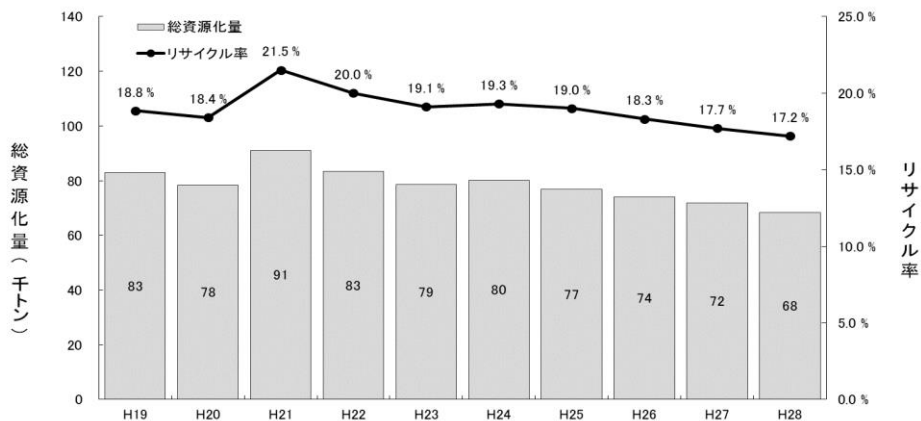


図 4 総資源化量とリサイクル率の推移

(3) 最終処分状況

平成 28 年度の最終処分量は 47,677 トンで、前年度と比較すると約 4.1% (2,052 トン) 減少しました。

市町村及び一部事務組合等が設置し、平成 28 年度末現在埋立を行っている最終処分場は 17 施設で、全ての施設の残余容量の合計は約 1,072 千 m^3 です。仮に、平成 28 年度最終処分量が今後続くとした場合、最終処分の残余年数は、約 18.4 年となります。(埋立ごみ比重を 0.8163 とした場合)

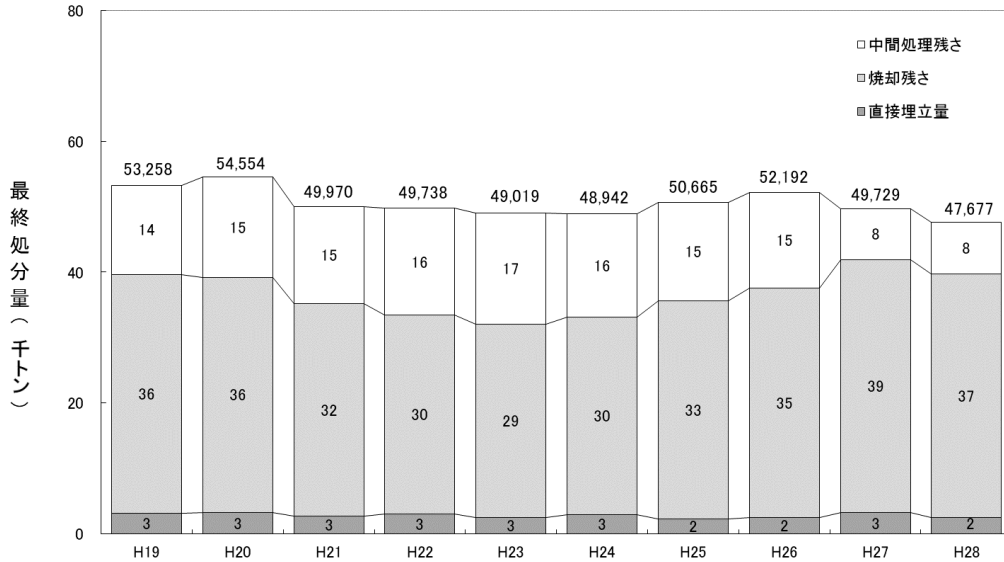


図 5 最終処分量の推移

(4) ごみ処理事業経費

平成 28 年度の市町村及び一部事務組合等のごみ処理に要する経費(建設改良費を除く)は約 124 億円で、直近 8 年間ではほぼ横ばいとなっています。県民一人あたりに換算すると 11,055 円、ごみ 1 トンあたりに換算すると約 31,282 円となります。

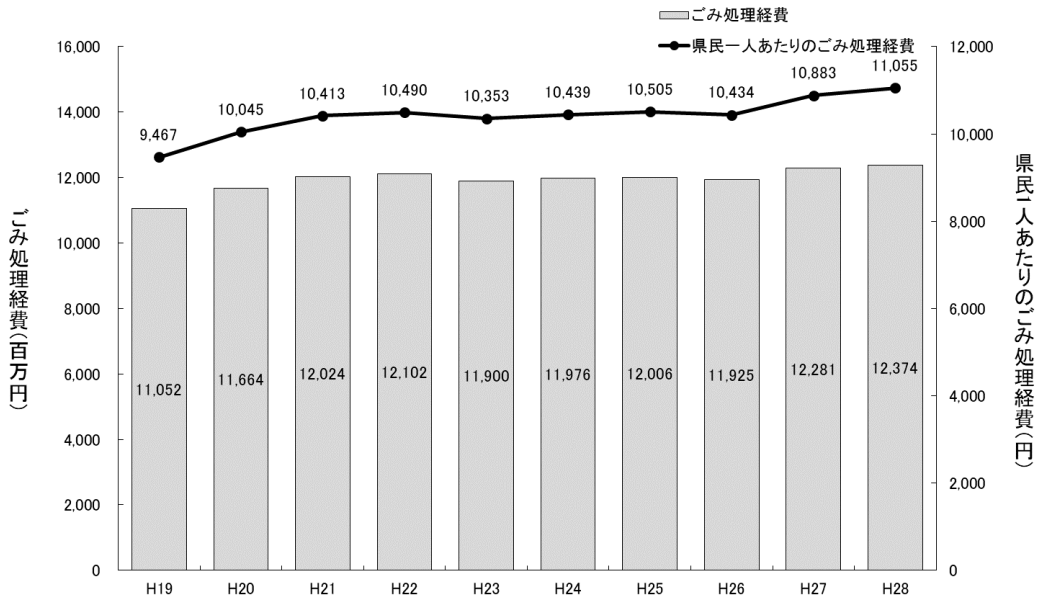


図 6 市町村等のごみ処理経費(建設改良費を除く)と県民一人あたりのごみ処理経費の推移